小児科だより vol.98

不登校

2024.11.1 発行

こんにちは。だんだんと冬の気配を感じるようになってまいりました。当科では、今年も 10 月中旬よりインフルエンザの予防接種を開始しております。また、2016 年の 11 月号（小児科だより vol.3）に、『うちの子はインフルエンザのワクチンうったほうが良いですか？』というテーマで書いておりますので、乳幼児にワクチン接種する際の参考にしていただけますと幸いです。

不登校児童生徒数の推移/文部科学省（2023.11.20閲覧）

さて今月の小児科だよりは、小児科外来への相談数も年々増加している『不登校』についてです。不登校は疾患ではなく、『学校に行かない』という状態で、文部科学省は、不登校を病気や経済的理由以外での年間 30 日以上の欠席と定義しています。

上に不登校児童生徒数の推移のグラフを示します。令和 4（2022）年度の小・中学校における不登校児童生徒数は 299,048 人（前年度 244,940 人）であり、前年度から 54,108 人（22.1%）増加し、在籍児童生徒に占める不登校児童生徒の割合は 3.2%（前年度 2.6%）と過去最高を記録しています。平成 27 年頃から徐々に増加してきて、新型コロナウイルスの初流行のあった令和 2（2020）年から一気に増加傾向が強くなっています。特に小学生は倍以上に増加しており、小学校低学年での不登校児童が増えていることも特徴的です。

不登校の要因としては、文部科学省の調査において、学校・家庭・本人の 3 つの要素にわけて分析しています。小中高校すべての年代において、学校では、『友人関係をめぐる問題』が最も多く、家庭では、『親子のかかわり方』が多くなっています。本人では、『無気力、不安』が最も多くなっておりますが、この『無気力、不安』の原因はどこにあるのかを掘り下げていく必要があります。

いろいろなお子さんの話を聞くと、学校に行っているお子さんにも『学校に行きたくない』気持ちがあり、不登校のお子さんにも『学校に行かなきゃ』という気持ちがあることがわかります。そして、この相反する気持ちが自身の中で拮抗している、いわゆる不登校予備軍のお子さんたちが、最近（コロナ流行以降）一気に不登校に傾いているように感じます。学校に行かなければならないわけではありませんが、社会的つながりを持つことは子どもの成長にとって重要です。医療機関はつらい子どもにとっての居場所の一つになりうると考えております。お悩みをお持ちの方は、小児科外来でご相談ください。